

令和3年度執行事務事業

施策名	基本事業	番号	事務事業名
快適で質の高い 住環境の整備	生活道路の整備	1	建築基準法第42条第2項道路整備指導事業
		2	市道道路改良事業
		3	市道維持補修事業
		4	認定外道路補修事業
		5	道路維持補修事業
		6	街路樹維持管理事業
		7	橋りょう長寿命化事業
		8	橋りょう維持補修事業
		9	道路構造物定期保守点検事業
		10	道路施設長寿命化修繕計画策定事業
		11	市道界233号線道路改良事業

事務事業名		建築基準法第42条第2項道路整備指導事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策 体系	基本目標	5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり					担当 組織	担当部	都市建設部	担当課	建築指導課	
	政 策	2 住みやすい快適なまちづくり					担当係	指導係		担当課長名	武富健二	
	施 策	1 快適で質の高い住環境の整備					事業 区分	新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 生活道路の整備						実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算 科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名		市単独事業・国県補助事業		国県補助事業		
	10841	一般	8	1	2	建築基準法第42条第2項道路整備指導事業		任意的事業・義務的事业		任意的事業		
事業 計画	単年度繰り返し		事業 期間	16年度～		年度	根拠 法令 条例等	佐野市建築行為等に係る道路後退用地の整備要綱 佐野市後退用地地分筆費用補助金交付要綱		実施方法		直営
										事業分類		その他直接サービス提供事業
							リーディングプロジェクト		該当なし			
							市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
・建築基準法第42条第2項の規定により指定された道路の後退用地を整備する。 ・後退した対象用地を明示するため杭を支給し、市へ後退用地無償使用承諾書を提出してもらう。 ・2項道路として後退した用地で、寄附及び無償使用承諾が得られた土地について、面する道と整合するような整備を行う。 ・2項道路の後退部分を市に寄附した場合、測量分筆登記にかかる費用について補助を行う。	後退用地の整備 工事請負費 55箇所 10,428,000円 後退用地分筆補助 84件 24,144,000円					
活動指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
無償使用承諾書	件	35	20	18	27	14
後退用地寄付件数	件	79	85	81	77	84

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

・建築基準法第42条第2項道路として指定された道 ・2項道路(狭あい道路)に接道する宅地および住民	対象指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	後退用地整備件数	件	59	47	48	53	55

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

後退用地を確保するとともに道路用地として整備する。	成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	整備件数/(無償使用承諾書+寄付件数)	%	51.8	44.8	48.5	51.0	56.1

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

住環境に最低限必要な機能と安全性を確保するため、道路の整備を推進する。	上位成果指標	単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	一般市道の改良率	%	57.7	59.3	59.3	59.4	59.4

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円	13,152		6,412		3,643		9,039		10,360	
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円	8,225		8,472		5,888		6,036		5,478	
	一般財源	千円	8,091		19,256		21,915		17,955		18,734	
	事業費計(A)	千円	29,468		34,140		31,446		33,030		34,572	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			工事請負費	7,322	工事請負費	9,115	工事請負費	7,637	工事請負費	10,329	工事請負費	10,428
			負担金、補助及び交付金	22,146	負担金、補助及び交付金	25,025	負担金、補助及び交付金	23,809	負担金、補助及び交付金	22,701	負担金、補助及び交付金	24,144
人件費	正規職員従事人数	人	4		4		4		4		4	
	のべ業務時間	時間	3,000		3,000		3,000		3,000		3,000	
	人件費計(B)	千円	11,448		11,463		11,445		10,911		10,908	
	トータルコスト(A)＋(B)	千円	40,916		45,603		42,891		43,941		45,480	

事務事業名	建築基準法第42条第2項道路整備指導事業	担当部	都市建設部	担当課	建築指導課	担当係	指導係
-------	----------------------	-----	-------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧田沼(平成3年度)、旧佐野(平成13年度)で実施していた同種の事業を継承し実施している。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成21年度より住宅局所管の国庫補助事業「狭あい道路整備等促進事業」が創設され本事業が対象事業となる。 平成25年度から後退用地の寄付に係る分筆補助制度が創設された。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	無償使用承諾書及び寄附の手続きをされた方から早期に整備をして欲しいとの要望がある。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 生活道路の機能、安全性を高めるためにも、建築基準法の規定により指定された道路が狭あい道路の場合、解消を図ることは必要。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 建築基準法に密接に関係する事業であり、実施主体となるのは市である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 建築基準法第42条第2項の規定により指定された道路の後退用地に対して、道路用地として整備する事務事業なので妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 分筆補助制度のより効果的な執行を図る。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 測量業務については、直営で行うことによりコスト削減を図り、事業費としては請負工事費のみとした。事業費及び人件費ともに必要最低限で実施しているため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 受益者負担金を取る事業ではない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	建築基準法第42条第2項の規定により指定された幅の狭い道路を解消し、生活道路としての機能と安全性の確保を図るため、本事業は必要である。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性			(2) 改革・改善による期待効果			(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																									
現状維持(従来通り実施)			廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																												
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)			<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>								コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																													
		削減	維持	増加																											
成果	向上																														
	維持		○	×																											
	低下		×	×																											

事務事業名		市道道路改良事業						評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)	
								担当組織	担当部	都市建設部	担当課
政策体系	基本目標	5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当係	道路建設係	担当課長名	黒田 英文
	政 策	2 住みやすい快適なまちづくり									
	施 策	1 快適で質の高い住環境の整備									
	基本事業	2 生活道路の整備									
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	11064	一般	8	2	3	市道道路改良事業					
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	17年度～ 年度		根拠法令 条例等	道路法 道路構造令	新規事業・継続事業		継続事業		
							実施計画事業・一般事業		一般事業		
							市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		一部委託			
						事業分類		施設等整備事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長市政公約					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
市道の改良、側溝、舗装の整備を実施することにより、生活基盤及び生活環境の向上を図る。 1.道路改良工事 (事業説明会、測量、用地取得、工事施工) 2.道路側溝工事 3.道路舗装工事		【令和3年度】 道路改良工事 9件 L= 615.1m 道路側溝工事 3件 L= 481.7m 道路舗装工事 1件 L= 82.0m 測量設計調査等業務委託 11件 電柱等移転補償 1 式						
		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		改良工事延長	m	1,026	1,115	187	747	615
		側溝工事延長	m	0	219	99	148	482
		舗装工事延長	m	42	0	0	95	0
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか？)								
1.改良要望箇所 2.側溝要望箇所 3.舗装要望箇所		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		改良要望箇所	箇所	4	1	2	2	0
		側溝要望箇所	箇所	2	1	0	0	1
		舗装要望箇所	箇所	2	2	0	0	0
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？)								
目的 付近住民の利便性の向上と安全に利用できる道路に整備する。		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		改良工事完了箇所	箇所	3	5	4	2	2
		側溝工事完了箇所	箇所	0	1	1	0	2
		舗装工事完了箇所	箇所	1	0	0	2	0
④結果(どのような結果に結びつきますか？)								
生活道路において、住環境に必要な機能と安全を確保する。		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		一般市道の改良率(改良済延長/市道の総延長)	%	57.7	59.3	59.3	59.3	59.4

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	事業費の内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
			財源内訳		財源内訳		財源内訳		財源内訳		財源内訳	
			国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円							5,483	
			一般財源	千円	135,141	121,549	62,136	99,040			125,405	
			事業費計(A)	千円	135,141	121,549	62,136	99,040			130,888	
			事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					旅費	0	旅費	0	旅費	4	旅費	0
					需要費	455	需要費	908	需要費	616	需要費	848
					役務費	1,721	役務費	129	役務費	392	役務費	159
					委託料	11	委託料	14,027	委託料	5,389	委託料	23,918
					使用料及び賃借料	0	使用料及び賃借料	718	使用料及び賃借料	843	使用料及び賃借料	845
					工事請負費	111,348	工事請負費	104,053	工事請負費	52,905	工事請負費	70,640
					負担金	0	負担金	39	負担金	0	負担金	0
					補償金、公課費	6,515	補償金、公課費	1,675	補償金、公課費	1,987	補償金、公課費	2,630
			正規職員従事人数	人	4	4	5	5	5	5	5	5
			のべ業務時間	時間	3,840	3,840	2,400	4,800			4,800	
			人件費計(B)	千円	14,653	14,673	9,156	17,458			17,453	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	149,794	136,222	71,292	116,498			148,341	

事務事業名	市道道路改良事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路建設係
-------	----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	市民・議会・町会等からの陳情、要望により地域住民の交通の利便性、円滑化を図ることを目的とし、道路管理をしていく上で必要な事業として開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	道路整備は市民生活の基盤を成すものであることから、市民の要望は極めて強く、その事業量は依然として膨大なものであり、各町会より市道の改良、側溝、舗装の整備要望が令和3年度末で約180箇所ある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	令和3年度において各町会等より、1件の市道拡幅等の要望が寄せられている。 令和1年6月議会において、箇所付けの透明性を図るうえで優先順位評価基準の策定が求められている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？		
	結びついている	理由・改善案	市道(生活道路)の改良工事による狭隘箇所の解消や、側溝工事を実施することによる路面排水不良箇所の解消等を行うことができ、加えて、交通の利便性、安全性を高め、快適で質の高い住環境の向上につながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？		
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案	道路は不特定多数の人が利用するものであり、道路管理者である市が整備することは、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？		
	妥当である	理由・改善案	市道道路改良事業計画書は市長、副市長及び行政職員が協議して箇所付けを行っているため、対象と意図は妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？		
	成果向上余地がない	理由・改善案	限られた財源の中、地域の要望にできる限り多く応えようと事業を行っている。本事業で施行する整備については、複数年度を要するものがほとんどであるため、これ以上の成果向上余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案	
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？		
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案	人件費については、業務内容によって外部委託することで削減を図っている。事業費については、工事等の設計には、栃木県の土木工事標準積算基準に基づいて設計しており、また工事資材等については再生材を利用することでコストの縮減を図っているため、さらなる削減は困難である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？		
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	道路は不特定多数の人が利用するものであることから、受益者負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	各町会等から市道改良の要望が無くなれば終了する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト	
	削減 維持 増加	
	向上	
	維持	
	低下	
	成果	
	維持	
	低下	

事務事業名										市道維持補修事業			評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり							担当組織	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課			
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり							事業区分	担当係	道路維持係	担当課長名	黒田英文			
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備								新規事業・継続事業		継続事業				
	基本事業	2	生活道路の整備								実施計画事業・一般事業		一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名				市単独事業・国県補助事業		市単独事業					
	10871	一般	8	2	2	市道維持補修事業				任意の事業・義務の事業		義務の事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	年度～	年度	根拠法令 条例等	道路法				実施方法		一部委託					
										事業分類		施設維持管理事業(市主体)					
										リーディングプロジェクト		該当なし					
										市長市政公約		該当なし					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
交通量の増大及び車両の大型化並びに舗装の老朽化により、道路の損傷は著しいものがあり、安全かつ円滑な交通を確保するため、恒常的な業務としてきめ細かな維持補修に努める。 ・市道数:3,090路線 ・市道延長:約1,156km ・市道の舗装延長:約915km	道路パトロールで発見した危険箇所と利用者からの苦情、ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕 ・老朽化し、交通に危険がある市道の緊急的な補修及び小破修繕 ・老朽化し、交通に危険がある市道の舗装の打ち換え工事 ・老朽化し、交通に危険がある市道の側溝の修繕工事						
	活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	危険箇所等の維持・修繕を実施した箇所数	箇所	915	722	552	701	902
	舗装修繕工事の実施延長	km	12	9.7	7.1	9.5	10.7
	側溝修繕工事の実施延長	m	764	815	586	20	504

②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市道	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	市道路線数	路線	3,086	3,090	3,090	3,090	3,090
	市道延長	km	1,155	1,156	1,156	1,156	1,156
	市道の舗装延長	km	910	912	912	912	915

③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

市道の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	1,294	909	811	992	1,201
	舗装修繕工事の実施延長÷市道の舗装延長 (打ち換えサイクルの理想値は10%)	%	1	1	1	1	1

④結果(どのような結果に結びつきますか?)

生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	一般市道の改良率 (改良済市道/市道の総延長)	%	57.7	59.3	59.3	59.4	59.4

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位		H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金		千円											
	県支出金		千円											
	地方債		千円											
	その他		千円											
	一般財源		千円		447,533		434,593		338,920		320,791		404,749	
	事業費計(A)		千円		447,533		434,593		338,920		320,791		404,749	
	事業費の内訳		千円		項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
					需用費	41,951	需用費	62,357	需用費	39,244	需用費	53,318	需用費	53,440
					役務費	214	役務費	110	役務費	230	役務費	112	役務費	141
					委託料	21,452	委託料	16,033	委託料	11,175	委託料	26,962	委託料	31,425
					使用料及び賃借料	619	使用料及び賃借料	937	使用料及び賃借料	969	使用料及び賃借料	971	使用料及び賃借料	978
					工事請負費	364,958	工事請負費	343,100	工事請負費	274,036	工事請負費	230,670	工事請負費	308,701
					原材料費	12,120	原材料費	12,055	原材料費	7,138	原材料費	8,421	原材料費	8,693
					備品購入費	6,192	備品購入費	0	備品購入費	6,120	備品購入費	337	備品購入費	1,364
					公課費	27	公課費	0	公課費	8	公課費	0	公課費	7
					人件費	正規職員従事人数		人		14		15		14
費	のべ業務時間		時間		17,800		17,800		17,800		17,800			
費	人件費計(B)		千円		67,925		68,014		67,907		64,739		64,721	
トータルコスト(A)+(B)		千円		515,458		502,607		406,827		385,530		469,470		

事務事業名	市道維持補修事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	市道の維持管理は、道路法の規定により道路管理者である市の重要な責務である。市道の供用開始時より事業開始となる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	全市的に市道の老朽化が進んでいる。特にアスファルト舗装の老朽化や損傷が激しく、部分的に利用者が危険な状態にあるが、安全かつ円滑な交通を確保するため、恒常的な業務として、きめ細かな維持管理をしていかなければならない。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	舗装や側溝の老朽化が進み損傷が激しく、利用者から毎日多くの苦情や修繕依頼を受けている。平成29年2月議会において「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	市道の道路施設の老朽化が進行しており、舗装や側溝の修繕が追いつかない状況であるため、より一層の事業費の増額が必要である。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 市道の危険箇所の修繕を行うことにより、交通の安全が確保され、安心して市道を利用することができ、住みやすい住環境を維持することができる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 市道を利用する人の安全を確保することを、道路管理者である市が行うことは、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 道路管理者として、市道の危険箇所の修繕を行うことは当然であり、妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案 道路パトロールで発見した危険箇所と、利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕は、速やかに処理をしているが、舗装の打ち替え等の修繕工事が、老朽化に追いつかない状況である。昭和40年代から50年代に実施した防塵舗装や、土地区画整理事業等の面整備で実施した舗装等が、一斉に老朽化し、打ち替えの時期に来ているため、修繕工事の実施延長を、大幅に延ばさなければならない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	類似事務事業名 理由・改善案
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 道路占用者(下水道、上水道、NTT、東京電力、佐野ガス等)と協力して、占用工事に合わせて共同で、舗装の打ち替えを実施しており、これ以上の削減の余地はない。今後、技能労務職員の削減及び高齢化が進むことから、補修作業については、民間委託をさらに進めていかなければならない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 市道の維持管理は、道路管理者である市の重要な責務であり、特定の受益者はいない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	道路管理者として、市道の危険箇所を無くし利用者の安全を確保することは当然であり、休止・終了することはできない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	市民が、安全に安心して道路を利用できるように、日常的にメンテナンスを実施しなければならない。このためには、必要な事業費の確保、職員の確保、技術力の向上が不可欠である。
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト 削減 維持 増加	
今後、市道の道路施設の老朽化がさらに進むことから、今まで以上に事業の充実を図らなければならない。	向上 成果維持 低下	○ × ×

事業費 投入量	財源内訳		単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)						
	国庫支出金		千円															
	県支出金		千円															
	地方債		千円															
	その他		千円															
	一般財源		千円		11,326		10,946		8,449		8,661		11,183					
	事業費計(A)		千円		11,326		10,946		8,449		8,661		11,183					
	事業費の内訳		千円	項目		事業費	項目		事業費	項目		事業費	項目		事業費			
				需用費		6,520	需用費		6,194	需用費		3,401	需用費		3,945	需用費		6,184
				委託料		418	委託料		317	委託料		472	委託料		355	委託料		439
				工事請負費		4,055	工事請負費		4,169	工事請負費		4,278	工事請負費		4,026	工事請負費		4,224
				原材料費		333	原材料費		266	原材料費		298	原材料費		355	原材料費		336
人件費		人		14		15		14		14		14		14				
のべ業務時間		時間		4,800		4,800		4,800		4,800		4,800		4,800				
人件費計(B)		千円		18,317		18,341		18,312		17,458		17,453		17,453				
トータルコスト(A)+(B)		千円		29,643		29,287		26,761		26,119		28,636		28,636				

事務事業名	認定外道路維持補修事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	-------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	認定外道路は、市道と同様の維持管理はできないが、土地所有者である市の重要な責務である。法定外公共物の国からの譲与、開発行為等の道路の帰属時より事業開始となる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	認定外道路の老朽化が進んでいる。特にアスファルト舗装の老朽化が激しく、部分的に利用者が危険な状態にあるが、安全かつ円滑な交通を確保するため、恒常的な業務として、きめ細かな維持管理をしていかなければならない。未舗装になっている砂利道の舗装化の要望が増えている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	舗装の老朽化が激しく、利用者から毎日多くの苦情や修繕依頼を受けている。未舗装になっている砂利道の舗装化の要望が増えている。平成29年2月議会において「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	認定外道路の道路施設の老朽化が進行しており、舗装や側溝の修繕が追い付かない状況であるため、より一層の事業費の増額が必要である。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 認定外道路の危険箇所の修繕を行うことにより、交通の安全が確保され、安心して道路を利用することができ、住みやすい住環境を維持することができる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 認定外道路は、生活をするうえで地域の人にとって大変重要な道路であり、利用する人の安全を確保することを、土地所有者である市が行うことは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 認定外道路の土地所有者として、危険箇所の修繕を行うことは当然であり妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案 利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕は、速やかに処理をしているが、舗装の打ち替え等の修繕が、老朽化に追い付かない状況である。開発行為等により帰属を受けた道路の老朽化が進んでいることから、修繕工事の実施延長を延ばさなければならない。未舗装になっている砂利道の舗装化の依頼や要望が多くあり、安全な交通を確保するため、事業費を増やさなければならない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	類似事務事業名 理由・改善案
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 道路占用者(下水道、上水道、NTT、東京電力、佐野ガス等)と協力して、占用工事に合わせて共同で、舗装の打ち替えを実施しており、これ以上の削減の余地はない。 今後、技能労務職員の削減及び高齢化が進むことから、補修作業については、民間委託をさらに進めていかなければならない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 認定外道路の維持管理は、土地所有者である市の重要な責務であり、特定の受益者はいない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	認定外道路の土地所有者として、危険箇所を無くし利用者の安全を確保することは当然であり、休止・終了することはできない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	認定外道路は、利用者が限定的な道路が多いため、日常的なメンテナンスは利用者の方々が行っていた状況である。近年、少子高齢化や両親と同居しない世帯が増加した影響で、利用者が日常的に維持管理することが困難になって、市に対する依頼や要望が増えている。このために、必要な事業費の確保、職員の確保が不可欠である。
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト 削減 維持 増加	
今後、認定外道路の道路施設の老朽化がさらに進むことや、舗装化の要望が増えていることから、今まで以上に事業の充実を図らなければならない。	向上 成果 維持 低下	○ × ×

事務事業名		道路維持補修事業							評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)					
政策体系	基本目標	5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり							担当	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課				
	政 策	2 住みやすい快適なまちづくり							組織	担当係	道路維持係	担当課長名	黒田英文				
	施 策	1 快適で質の高い住環境の整備							事業区分	新規事業・継続事業		継続事業					
	基本事業	2 生活道路の整備								実施計画事業・一般事業		一般事業					
								市単独事業・国県補助事業		市単独事業							
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名							任意的事業・義務的事業		義務的事業		
	10873	一般	8	2	2	道路維持補修事業							実施方法		一部委託		
													事業分類		施設維持管理事業(市主体)		
事業計画	単年度繰返し		事業期間	年度～ 年度		根拠法令 条例等	道路法、都市計画法、地方分権一括法、労働安全衛生法、きれいなまちづくり推進条例							リーディングプロジェクト		該当なし	
														市長市政公約		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
市道及び認定外道路の除草、除雪及び清掃等や破損箇所の補修作業に必要な機械経費等の経常経費。		市道及び認定外道路の除草、除雪及び清掃等破損箇所の補修作業に必要な機械経費等					
活動指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
危険箇所等の維持・修繕を実施した箇所数		箇所	1,032	809	606	791	985

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

市道及び認定外道路		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		市道の延長	km	1,155	1,156	1,156	1,156	1,156
		認定外道路の延長	km	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

認定外道路の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	174	121	81	129	120

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		一般市道の改良率 (改良済市道/市道の総延長)	%	57.7	59.3	59.3	59.4	59.4

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	事業費の内訳	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
		国庫支出金	千円										
		県支出金	千円										
		地方債	千円										
		その他	千円										
		一般財源	千円		13,724	11,927	9,513	10,481	13,280				
		事業費計(A)	千円		13,724	11,927	9,513	10,481	13,280				
		事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
				報酬	1,798	報酬	1,791	報酬	1,503	需用費	3,220	需用費	3,449
				共済費	289	共済費	289	共済費	263	役務費	384	役務費	488
				需用費	2,688	需用費	2,446	需用費	2,763	委託料	6,674	委託料	9,103
				役務費	533	役務費	391	役務費	504	負担金、補助金及び交付金	97	負担金、補助金及び交付金	96
				委託料	8,185	委託料	6,837	委託料	4,258	公課費	106	公課費	144
				負担金、補助金及び交付金	57	負担金、補助金及び交付金	59	負担金、補助金及び交付金	58				
				公課費	174	公課費	113	公課費	164				
人件費	正規職員従事人数	人		14	15	14	14	14					
	のべ業務時間	時間		2,300	2,300	2,300	2,300	2,300					
	人件費計(B)	千円		8,777	8,788	8,775	8,365	8,363					
	トータルコスト(A)+(B)	千円		22,501	20,715	18,288	18,846	21,643					

事務事業名	道路維持補修事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	市道及び認定外道路の維持管理は、道路管理者及び土地所有者である市の重要な責務である。市道の供用開始時及び法定外公共物の国からの譲与、開発行為等の道路の帰属時より事業開始となる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	道路利用者の安全に対する関心は非常に高く、安全かつ円滑な交通を確保するため、除草、除雪及び清掃等を行い、恒常的な業務としてきめ細かな維持管理をしていかなければならない。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市道及び認定外道路の老朽化が激しく、利用者から毎日多くの苦情や修繕依頼を受けている。平成29年2月議会において「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	道路利用者の安全に対する関心は非常に高く、安全かつ円滑な交通を確保するための除草、除雪及び清掃等の要望等の増加に対応できていないため、より一層の事業費の増額が必要である。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？		
	結びついている	理由・改善案	市道及び認定外道路の維持管理を行うことにより、交通の安全が確保され、安心して市道を利用することができ、住みやすい住環境を維持することができる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？		
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案	市道及び認定外道路は、生活をする上で地域の人にとって大変重要な道路であり、利用する人の安全を確保することを、道路管理者及び土地所有者である市が行うことは、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？		
	妥当である	理由・改善案	市道及び認定外道路の維持管理は、道路管理者及び土地所有者として当然であり、妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？		
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案	道路パトロールで発見した危険箇所と、利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕は、速やかに処理をしているが、舗装の打ち替え等の修繕工事が、老朽化に追い付かない状況である。昭和40年代から50年代に実施した防塵舗装や、土地区画整理事業等の面整備で実施した舗装等が、一斉に老朽化し、打ち替えの時期に来ているため、修繕工事の実施延長を、大幅に延ばさなければならない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案	
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？		
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案	除草、除雪及び清掃等は、最低限必要な箇所を実施しており、また、破損箇所の補修作業に必要な機械経費等の経常経費であるため、さらに削減する余地はない。今後、技能労務職員の削減及び高齢化が進むことから、現場作業については民間委託をさらに進めていかなければならない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？		
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	市道及び認定外道路の維持管理は、道路管理者及び土地所有者である市の重要な責務であり、特定の受益者はいない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	市道の道路管理者及び認定外道路の土地所有者として、危険箇所を無くし利用者の安全を確保することは当然であり、休止・終了することはできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	市民が、安全に安心して道路を利用できるように、日常的にメンテナンスを実施しなければならない。このために、必要な事業費の確保、職員の確保が不可欠である。
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト	
道路利用者の安全に対する関心は非常に高く、安全かつ円滑な交通を確保するため、除草、除雪及び清掃等の維持管理を実施するため、今まで以上に事業の充実を図らなければならない。	削減 維持 増加	
	向上	
	維持	
	低下	

事務事業名		街路樹維持管理事業						評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)	
								担当組織	担当部	都市建設部	担当課
政策体系	基本目標	5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当係	道路維持係	担当課長名	黒田英文
	政 策	2 住みやすい快適なまちづくり						事業区分	新規事業・継続事業		継続事業
	施 策	1 快適で質の高い住環境の整備							実施計画事業・一般事業		一般事業
	基本事業	2 生活道路の整備							市単独事業・国県補助事業		市単独事業
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名			任意的事業・義務的事業		任意的事業
	10880	一般	8	2	2	街路樹維持管理事業		実施方法		一部委託	
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	年度～	年度	根拠法令 条例等	道路法	事業区分	事業分類		施設維持管理事業(市主体)	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長市政公約		該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1)事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方) 専門業者に業務委託を行い、街路樹を良好に維持管理する。 業務委託内容:剪定、除草、害虫防除等						令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)					
						・市道43路線の街路樹について、夏季に剪定、除草、害虫防除等を8件の業務委託により行った。また、冬期剪定については、16路線を5件の業務委託により行った。					
						活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)
						高木剪定	本	1,483	1,259	129	1,443
						低木防除	m ²	10,139	10,278	10,153	8,800
目 的	②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?) 街路樹が適切に管理されている。	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)			
目 的	③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?) 街路樹が適切に管理されている。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)			
目 的	④結果(どのような結果に結びつけますか?) 生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)			

(2)総事業費の推移・内訳

事業 費 の 内 訳	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	37,406		37,005		20,261		36,372		37,105	
	事業費計(A)	千円	37,406		37,005		20,261		36,372		37,105	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			委託料	37,406	委託料	37,005	委託料	20,261	委託料	36,372	委託料	37,105
人 件 費	正規職員従事人数	人	2		2		2		2		2	
	のべ業務時間	時間	50		50		50		50		50	
	人件費計(B)	千円	191		191		191		182		182	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	37,597		37,196		20,452		36,554		37,287	

事務事業名	街路樹維持管理事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	-----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成22年度までは公園維持管理事業として他の公園と併せた事業であったが、事務の効率化を図るため平成23年度から街路樹維持管理事業として単独で管理することになった。令和3年度より、所管部署を変更して道路河川課が管理することになった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	地球温暖化、温室ガス効果の削減、ヒートアイランド、異常気象による災害の発生があり、パリ協定が採択され温室ガス削減目標が定められた。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市民から、街路樹の剪定、除草、害虫防除、落葉対策などの要望が多い。また、平成26年4月には他県で街路樹の枯れ枝落下事故があり、議会において市の対策について一般質問が出された。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 街路樹が適正に維持管理されていることは、快適で質の高い住環境の整備に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 市が管理する街路樹なので、市が維持管理に責任をもって当たるべきである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 街路樹を適切に維持管理して、道路を安全に利用してもらうことは妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 適切な時期・頻度で適正な単価・歩掛を用いて積算しており、やり方・進め方を見直すことはできない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名 * 類似事務事業があれば、名称を記入
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 街路樹は道路新設等により増加する。既存の街路樹については数年毎に剪定が必要であり、害虫防除や除草は毎年行う必要があり削減は難しい。
総合 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 街路樹は市民全体の財産であり、沿道の環境を良好に形成して生活に潤いを与えるものとなっているため受益者負担を求める必要はない。
⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
市民が安全に安心して道路を利用するためには、休止・廃止はできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性		(2) 改革・改善による期待効果		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																		
現状維持(従来通り実施)		廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																				
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)		<table><tr><td></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td>○</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト				削減	維持	増加	成果	向上			維持	○	×	低下	×	×
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
成果	向上																					
	維持	○	×																			
	低下	×	×																			

事務事業名		橋りょう長寿命化事業						評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
								担当組織	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	
政策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当係	道路維持係	担当課長名	黒田英文	
	政 策	2	住みやすい快適なまちづくり						事業区分	新規事業・継続事業			継続事業
	施 策	1	快適で質の高い住環境の整備							実施計画事業・一般事業			一般事業
	基本事業	2	生活道路の整備							市単独事業・国県補助事業			国県補助事業
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						任意的事業・義務的事业	義務的事业
	11193	一般	8	2	4	橋りょう長寿命化事業						実施方法	一部委託
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H25年度～ 年度		根拠法令 条例等	道路法		事業区分	事業分類			施設維持管理事業(市主体)	
									リーディングプロジェクト			該当なし	
									市長市政公約			該当なし	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
今後老朽化する道路橋の増大に対応するため、H23年度策定された長寿命化修繕計画をもとに、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な政策転換を図るとともに、橋梁の長寿命化並びに橋梁の修繕及び架け替えに掛かる費用の縮減・平準化を図りつつ、地域の安全性・信頼性を確保する。 ・橋長15m以上の橋梁数:115橋 ・橋長2m以上15m未満の橋梁数:488橋 道路橋等については、5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が施行された。(平成26年7月1日施行)それに伴い対象橋梁が、15m以上の橋りょうから2m以上に、点検方法も遠方目視から近接目視点検に変更となっている。		《工事》 ・市道鍋山岡の内線岡の内橋外橋梁補修工事 (R2年度繰越) (岡の内橋、大沢橋、赤見37号橋) 《委託》 ・前沢橋(秋山町)、紫土橋(飛駒町)、植野89号橋(飯田町)の調査設計業務						
		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		長寿命化修繕工事実施橋梁数	橋	0	1	1	1	3

②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

橋長15m以上の橋りょう 橋長2m以上15m未満の橋りょう (令和2年度より)	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	橋長15m以上の橋梁数	橋	115	115	115	115	115
	橋長2m以上15m未満の橋梁数	橋				488	488

③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

今後老朽化する道路橋の増大に対応するため、H23年度に策定された長寿命化修繕計画をもとに、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な政策転換を図る。 今後、道路構造物定期保守点検事業の点検結果により、計画の改定が必要となってくる。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	実施橋梁数÷(橋長15m以上の橋梁数+橋長2m以上15m未満の橋梁数)	%	0	1.0	1.0	1.0	1.0

④結果(どのような結果に結びつきますか?)

生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。 * R01から2巡目点検実施	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	一般市道の改良率 (改良済市道/市道の総延長)	%	57.7	59.3	59.3	59.4	59.4
	橋梁の点検率 (点検済件数/市内の橋梁数)	%	78.3	100	-	-	-

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	事業費	国庫支出金	千円	8,250	12,540	29,015	6,507	21,639
		県支出金	千円					
		地方債	千円	6,000	9,100	21,100	4,700	15,200
		その他	千円					
		一般財源	千円	870	2,358	3,832	2,616	7,062
	事業費計(A)		千円	15,120	23,998	53,947	13,823	43,901
	事業費の内訳	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目
		委託費	15,120	委託費	8,802	委託費	3,245	委託費
		工事請負費	0	工事請負費	15,196	工事請負費	7,880	工事請負費
						工事請負費(繰越分)	42,822	工事請負費(繰越分)
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
	のべ業務時間	時間	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	人件費計(B)	千円	7,632	7,642	7,630	7,274	7,272	7,272
	トータルコスト(A)+(B)	千円	22,752	31,640	61,577	21,097	51,173	51,173

事務事業名	橋りょう長寿命化事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	橋梁の老朽化は全国的な問題となっており、国ではこれまでの事後保全型管理から予防保全型管理へと転換し、橋梁の長寿命化を図っている。本市でも、急速に高齢化橋梁が増大することが想定され、橋梁の長寿命化を図るため、平成23年度に橋梁長寿命化修繕計画を策定し、平成25年度から計画に基づき実施することとなった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成24年12月に発生した、笹子トンネルでの天井板の落下事故により、橋りょうやトンネルなどの道路構造物の社会インフラの維持管理の重要性が注目されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市議会において、橋りょう長寿命化修繕計画策定や当該事業に対し、一般質問が幾度もあり、関心の高さが伺える。 平成29年2月議会において「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	安全かつ円滑な交通を確保するため、老朽化が進行した多数の橋梁を計画的に修繕するには、担当する技術職員を増加する必要がある。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 橋りょうの老朽化が進行するなか、橋りょうの修繕計画を策定し、修繕等を実施していくことは、地域の道路網の安全性、信頼性が確保できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 橋りょうを利用する人の安全を確保することは、道路管理者である市の重要な責務であり、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 平成25年度までは、市が管理する603橋すべての橋りょうについて計画を策定することは困難であることから、地域の重要な道路網で修繕及び架け替えに係る事業費が大きい橋長15m以上の主要な橋りょうを対象としていたが、平成27年度からの事業である道路構造物定期保守点検事業の点検結果によって、15m未満の橋りょうについても、緊急修繕が必要との結果となれば、事業の対象となってくる。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案 橋りょうの老朽化が進行しているなかで、事業費、人員を増やすこと及び、事業の進捗を早めることにより、健全な橋りょうが増え、安全性、信頼性が増す。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	類似事務事業名 理由・改善案
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、予防的な修繕及び計画的な架け替えを実施することで、老朽化した橋りょうの長寿命化を図るとともに、膨大な事業費の平準化を図っていることから、事業費、人件費の削減は事業成果の低下に繋がるため、削減の余地は無い。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 本事業は、橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、市道橋の安全性、信頼性を確保するため実施しており、特定の受益者はいない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	道路管理者として、市道の危険箇所を無くし利用者の安全を確保することは当然であり、休止・終了することはできない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	橋りょうを計画の管理水準に保つためには、事業費はもとより、技術職員の人員増を図らなければならない。
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト 削減 維持 増加	
今後、老朽化する市管理橋りょうの増大に対応するため、今まで以上に事業の充実を図らなければならない。	向上 成果維持 低下	○ × ×

事務事業名		橋りょう維持補修事業						評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
								担当組織	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	
政策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当係	道路維持係	担当課長名	黒田英文	
	政 策	2	住みやすい快適なまちづくり						事業区分	新規事業・継続事業			継続事業
	施 策	1	快適で質の高い住環境の整備							実施計画事業・一般事業			一般事業
	基本事業	2	生活道路の整備							市単独事業・国県補助事業			市単独事業
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名		任意的事業・義務的事業			義務的事業		
	11190	一般	8	2	4	橋りょう維持補修事業		実施方法			一部委託		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	年度～	年度	根拠法令 条例等	道路法	事業分類			施設維持管理事業(市主体)			
							リーディングプロジェクト			該当なし			
							市長市政公約			該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)									
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)					令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)				
危険度の高い橋梁を緊急的に補修するとともに、老朽化の激しい橋梁の改築を計画的に実施し、安全かつ円滑な交通を確保する。 ・橋梁数:601橋(うち木橋数:4橋) ・横断歩道橋:2橋 (令和元年東日本台風で被災した橋梁1橋を廃止した。また、被災した木橋1橋をPC橋へ架替替中である。)					・道路パトロールで発見した危険箇所等と利用者からの情報提供ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕。(10箇所) ・道路構造物定期保守点検事業で要修繕と診断を受けた、橋梁小破修繕(6箇所)や老朽化した橋梁の修繕工事(5箇所)を実施した。 植野5号橋、植野43号橋、吾妻36号橋、千歳橋、菊沢橋、赤見32号橋の小破修繕 室の沢橋、海陸橋側道橋、吾妻29号橋、犬伏18号橋、植野42号橋の修繕工事				
活動指標					単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)
修繕工事を実施した橋梁数					橋	0	1	2	4
修繕工事を実施した木橋数					橋	3	1	0	1
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)									
市道に架かる橋梁 (道路改良工事により橋梁1橋を廃止した。令和元年東日本台風により被災した橋梁1橋を廃止した。)					対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)
市道に架かる橋梁					橋	605	604	604	603
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)									
市道に架かる橋梁の危険箇所の修繕を行い、危険箇所起因する事故の発生を未然に防止する。					成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)
修繕工事等の実施橋梁数÷市道に架かる橋梁数					%	1.0	1.0	1.0	1.0
④結果(どのような結果に結びつきますか?)									
生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。 * H31から2巡目点検実施					上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)
一般市道の改良率 (改良済市道/市道の総延長)					%	57.7	59.3	59.3	59.4
橋梁の点検率 (点検済件数/市内の橋梁数)					%	78.3	100	-	-

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円	8,412		10,773		2,530		7,954		11,320	
	事業費計(A)	千円	8,412		10,773		2,530		7,954		11,320	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	2,656	需用費	2,386	需用費	6	需用費	2,915	需用費	3,176
			委託費	983	委託費	216	委託費	208	委託費	418	委託費	1,260
			工事請負費	4,471	工事請負費	7,668	工事請負費	2,313	工事請負費	4,620	工事請負費	6,479
			原材料費	302	原材料費	503	原材料費	3	原材料費	1	原材料費	405
人件費	正規職員従事人数	人	10		10		10		10		10	
	のべ業務時間	時間	2,000		2,000		2,000		2,000		2,000	
	人件費計(B)	千円	7,632		7,642		7,630		7,274		7,272	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	16,044		18,415		10,160		15,228		18,592	

事務事業名	橋りょう維持補修事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	市道に架かる橋梁の維持管理は、道路管理者である市の重要な責務である。市道の供用開始時より事業開始となる。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	全市的に橋梁の老朽化が進んでいる。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	橋梁の老朽化が激しく、利用者から多くの苦情や修繕依頼を受けている。平成29年2月議会において「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	安全かつ円滑な交通を確保するため、老朽化が進行した多数の橋梁を計画的に修繕するには、担当する技術職員を増加する必要がある。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？		
	結びついている	理由・改善案	橋梁の危険箇所の修繕を行うことにより、交通の利便性、安全性を高めて、道路・交通網の整備を図る。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？		
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案	橋梁を利用する人の安全を確保することは、道路管理者である市の重要な責務であり、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？		
	妥当である	理由・改善案	道路管理者として、橋梁の危険箇所の維持・修繕を行うことは当然であり、妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？		
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案	供用開始してから50年を経過している老朽橋が219橋あり、致命的な損傷が生じないうちに、延命を図りつつ積極的に補修等を進めなければならない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？		
公平性 評価	類似事務事業はない	類似事務事業名	
		理由・改善案	
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
総合 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？		
	削減の余地はない	理由・改善案	老朽化した橋梁の改築を、危険性の高い橋梁から順次計画的に進めるとともに、コンクリートの補修や鋼製橋の塗装等を実施し、延命化を図るわけであるが、道路橋については、5年に1回の定期点検が義務化され、その点検・診断結果によっては、その数が増える事も想定されるため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？		
総合 評価	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	橋梁の維持管理は、道路管理者である市の重要な責務であり、特定の受益者はいない。
	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	道路管理者として、橋梁の危険箇所を無くし利用者の安全を確保することは当然であり、休止・終了することはできない。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	道路構造物は、交通の累積や老朽化により、供用性能が低下する橋りょうが増加していく。このため、橋梁の安全性を一定の水準に保つためには、財政、人事担当にそれ相当の費用及び人員が必要となることを理解してもらわなければならない。
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト	
橋梁の老朽化がさらに進むことから、今まで以上に本事業の充実を図らなければならない。	削減 維持 増加	
	向上	○
	維持	×
	低下	×

事務事業名		道路構造物定期保守点検事業						評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当組織	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課
	政 策	2 住みやすい快適なまちづくり						担当係	道路維持係		担当課長名	黒田英文
	施 策	1 快適で質の高い住環境の整備										
	基本事業	2 生活道路の整備										
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	11194	一般	8	2	4	道路構造物定期保守点検事業						
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H27年度～		年度	根拠法令 条例等	道路法	事業区分	新規事業・継続事業		継続事業	
									実施計画事業・一般事業		一般事業	
					市単独事業・国県補助事業		国県補助事業					
					任意の事業・義務の事業		義務的事业					
					実施方法		一部委託					
					事業分類		施設維持管理事業(市主体)					
					リーディングプロジェクト		該当なし					
					市長市政公約		該当なし					

1. 事務事業の現状把握【DO】
(1)事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
笹子トンネル天井板落下事故を契機に、全国的に問題となっている、道路橋等施設の老朽化に対応し、道路法第42条第3項及び道路施行令第35条の2項の規定に基づき、道路橋等については、5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が施行された。 (平成26年7月1日施行) 今後はこの省令に基づき、道路管理者へ道路橋等構造物の適切な定期点検等の義務が明確化された。 市内で該当する施設は600を超え、この施設を5年に一度の割合で定期点検する必要がある。財政面・人不足等の課題を踏まえ国・県と連携を図りながら事業を進める。	(令和3年度実施内容) ・橋梁点検業務委託 124橋 ・PCB等含有塗膜調査業務委託 13橋						
	活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	道路橋定期点検数	箇所	237	109	0	225	124
	横断歩道橋点検数	箇所	1	1	0	0	0

②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

支間2.0m以上の道路橋:601橋 横断歩道橋:2橋 以上について5年1回の頻度で点検を実施する (令和元年東日本台風により被災した橋梁1橋を廃止した。)	対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	支間2.0m以上の道路橋	箇所	603	602	602	601	601
	横断歩道橋	箇所	2	2	2	2	2

③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

定期点検の実施により各施設の健全性を分類し、H23年度に策定された長寿命化修繕計画と同様に従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な道路施設の長寿命化を策定していく。	成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	支間2m以上の道路橋点検数 ÷支間2m以上の道路橋数	%	39.3	18.1	0.0	37.4	20.6
	横断歩道橋の点検数÷横断歩道橋数	%	50.0	50.0	0	0	0

④結果(どのような結果に結びつきますか?)

生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。 * R01から2巡目点検実施	上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
	一般市道の改良率 (改良済市道/市道の総延長)	%	57.7	59.3	59.3	59.4	59.4
	橋梁の点検率 (点検済件数/市内の橋梁数)	%	78.3	100	-	-	-

(2)総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	国庫支出金	千円		55,550	25,410	0	20,671	17,896
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		47,078	21,138	0	16,938	14,642
	事業費計(A)	千円		102,628	46,548	0	37,609	32,538
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			需用費	28	委託料	46,548	委託料	21,373
			委託料	102,600			委託料(繰越分)	16,236
	正規職員従事人数	人		10	10	10	10	10
	のべ業務時間	時間		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	人件費計(B)	千円		7,632	7,642	7,630	7,274	7,272
	トータルコスト(A)+(B)	千円		110,260	54,190	7,630	44,883	39,810

事務事業名	道路構造物定期保守点検事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	---------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成24年12月の笹子トンネル天井板落下事故を契機に、全国的に問題となっている、道路橋等施設の老朽化に対応し、5年に1回の近接目視による点検等を規定する道路法施行規則の一部を改正する省令が施行された。(平成26年7月1日施行) この省令及び告示に基づき道路橋等構造物については、適切な定期点検が必要となっており、この定期点検により道路施設の健全性を確認し、施設の長寿命化事業へ円滑に移行できるようにするため、平成27年度から実施することとなった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	全国的に社会資本の老朽化が進むなか、国ではこれまでの事後保全型管理から予防保全型管理へと転換を図り、施設の長寿命化を図っている。今回の道路法の改正により道路管理者へ点検が義務化され、各道路管理者は法令に基づき施設の健全性を確認し、更なる施設の長寿命化を図ることが必要である。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	道路法施行規則の一部改正に伴う義務的事業である。 当該事業は、上記記述のとおり橋りょう長寿命化事業と関連しており、長寿命化に関しては一般質問が幾度もあり、関心の高さが伺える。 平成29年2月議会において「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 定期点検を実施することにより、施設の健全性が確認でき、施設の長寿命化事業へ円滑に移行できることとなる。その為、地域の道路網の安全性、災害時の避難施設への道路の安全性が確保できる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 道路施設の安全の有無を確認することは、道路法に規定されており、道路管理者である市の重要な責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 道路法施行規則の一部改正に伴う義務的事業であり、橋りょう長寿命化事業と関連しているため、該当する道路橋601橋、横断歩道橋2橋の全ての健全性を5年に一度の周期で点検し、修繕計画を建てることは当然であり、妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案 全ての道路橋等を5年に一度で平準化した場合、年間120橋以上の点検が必要であり、国費を含めた財源を確保することが条件となる。そのためには、事業費の増加が必要であり、また、施設の健全化の確認、長寿命化事業への移行を円滑に行うためには、職員の確保、技術力の向上も必要である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 道路法改正のもと該当する道路施設を定期点検していくものであり、削減する余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 本事業は市で管理する道路施設を定期点検し、施設の健全性を確認する事業である。道路施設の健全性確認は道路管理者の重要な責務であり、特定の受益者はいない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	道路法改正に伴い、道路施設を定期的に点検する事業であり休止・終了することはできない。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。	道路法改正に伴う5年に1回の点検、また、その後の長寿命化事業への円滑な移行を行うためには、事業費の増加、職員の確保、技術力の向上を図らなければならない。
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	コスト 削減 維持 増加	
今後、道路構造物の老朽化はさらに進むことから、今以上に事業の充実を図らなければならない。	向上 成果維持 低下	○ × ×

事務事業名		道路施設長寿命化修繕計画策定事業						評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
								担当組織	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課
政策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当係	道路維持係	担当課長名	黒田英文
	政 策	2	住みやすい快適なまちづくり						事業区分	新規事業・継続事業		継続事業
	施 策	1	快適で質の高い住環境の整備							実施計画事業・一般事業		実施計画事業
	基本事業	2	生活道路の整備							市単独事業・国県補助事業		国県補助事業
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名		任意的事業・義務的事業		義務的事業		
	10879	一般	8	2	2	道路施設長寿命化修繕計画策定事業		実施方法		一部委託		
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	平成30年度～令和3年度			根拠法令 条例等	道路法	事業分類		計画策定・管理事業		
								リーディングプロジェクト		該当なし		
								市長市政公約		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)								
今般、老朽化の著しい道路施設(橋梁、舗装、道路附属物)に対し、計画的な修繕を繰り返すことで、施設の長寿命化を図ることが求められている。 このため、平成24年3月に橋長15m以上の橋梁に対して佐野市橋梁長寿命化修繕計画を策定し、従来までの事後的修繕から予防保全的な修繕に政策転換することで修繕を実施してきた。さらに、平成26年の道路法施行規則の改正により、全ての道路橋に対して点検が義務化されたことから、定期点検を行い損傷状況の把握等、安全性の確認を行ってきた。 今後は、定期点検の結果に基づき、全ての橋梁を対象に維持管理方針を検討のうえ、佐野市橋梁長寿命化修繕計画を策定し、地域の安全・安心な暮らしを整備するものである。 また、道路標識等の道路附属物や舗装についても、予防保全的な修繕に政策転換することにより、安全な道路環境を継続的に確保するため、長寿命化修繕計画を策定するものである。			令和3年度実績 舗装及び道路附属物の長寿命化修繕計画を業務委託により策定した。								
			活動指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			橋梁長寿命化修繕計画策定 業務の進捗率		%			0	100		
			舗装長寿命化修繕計画策定 業務の進捗率		%					100	
			道路附属物長寿命化修繕計 画策定業務の進捗率		%					100	
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
・橋梁 603橋(横断歩道橋含む) ・市道の舗装延長 912km ・道路附属物 594基(標識74基・照明514基・情報提供装置6基) (道路改良工事により橋梁1橋を廃止した。令和元年東日本台風により被災した橋梁1橋を廃止した。移管及び新設した道路照明の数を補正した。)			対象指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			橋梁		橋	605	604	604	603	603	
			市道舗装延長		km	907	907	907	907	908	
			道路附属物		基	558	558	563	594	594	
			③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)								
目的	今後も増え続けていく道路施設の老朽化に対し、長寿命化修繕計画を策定し、予防保全的な修繕を行うことで、施設の長寿命化を図り安全で良好な道路環境を確保する。			成果指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
				橋梁修繕工事の実施数		橋	4	7	2	5	8
				舗装修繕工事の実施延長		km	12	9.4	7.1	9.5	10.7
				道路附属物修繕工事の実施 数		基	1	0	5	4	8
				④結果(どのような結果に結びつきますか?)							
生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保する。 * R01から2巡目点検実施			上位成果指標		単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)	
			一般市道の改良率 (改良済市道/市道の総延長)		%	57.7	59.3	59.3	59.4	59.4	
			橋梁の点検率 (点検済件数/市内の橋梁数)		%	78.3	100	-	-	-	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費投入量	財源内訳	単位	H29年度(実績)		H30年度(実績)		R1年度(実績)		R2年度(実績)		R3年度(実績)	
	国庫支出金	千円							5,907		3,571	
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円							4,838		5,119	
	事業費計(A)	千円	0		0		0		10,745		8,690	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
									業務委託料	10,745	業務委託料	8,690
人件費	正規職員従事人数	人					2		2		2	
	のべ業務時間	時間					100		840		840	
	人件費計(B)	千円	0		0		382		3,055		3,054	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0		0		382		13,800		11,744	

事務事業名	道路施設長寿命化修繕計画策定事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路維持係
-------	------------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	国土交通省のインフラ長寿命化計画において、平成32年度までに個別計画の策定を求められている。 平成26年の道路法施行規則の改正に伴い、全ての道路橋に対して点検が義務化されたことから、全ての橋梁を対象に佐野市橋梁長寿命化修繕計画を策定し維持管理方針を検討のうえ、継続的に地域の安全な道路環境を維持していくものである。また、道路の舗装や附属物の点検要領も制定され、定期的・効率的な道路施設の維持管理を行い地域の安全を確保していく必要がある。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	今後、永年に渡って、道路管理者の責任の下、道路施設の定期的な点検行い、予防保全的な修繕・架け替え等を実施していかなければならない。 限られた予算を有効かつ効果的に執行するため、集中と選択を視野に入れた維持管理方法を検討していく必要がある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	道路施設の長寿命化対策は全国的な課題であり、栃木県内においても国が主導する道路メンテナンス会議も発足し、情報の共有、問題提起など、精力的に動いている。 佐野市への一言や議会でも、道路の適正な維持管理に関して度々要望が寄せられている。また、平成29年2月議会においても、「道路の適切な維持管理について」要望が出されている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業終了	

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？		
	結びついている	理由・改善案	老朽化の進む道路施設の健全度を調査して現状を把握し、優先順位を決定することで、効率的・効果的な道路の安全対策を行い、住みやすい快適なまちづくりに貢献する。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？		
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案	道路管理者として利用者の安全を確保することは市の重要な責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？		
	妥当である	理由・改善案	
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？		
	成果向上余地がかなりある	理由・改善案	
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業名	
公平性 評価	類似事務事業はない	理由・改善案	
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？		
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案	計画を策定するために必要な事業費を計上しているため、事業費の削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？		
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	本事業は市で管理すべき道路施設の効率的な維持管理を目的に行うものであり、受益者負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)		
	道路施設の長寿命化修繕計画を策定した時点で事業完了となる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性			(2) 改革・改善による期待効果			(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策		
事業終了			廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。					
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)								
				コスト				
				削減	維持	増加		
成果	向上							
	維持				○	×		
	低下				×	×		

事務事業名		市道界233号線外道路改良事業						評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)	
								担当組織	担当部	都市建設部	
政策体系	基本目標	5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり						担当係	道路建設係	担当課長名	黒田 英文
	政 策	2 住みやすい快適なまちづくり						事業区分	新規事業・継続事業		継続事業
	施 策	1 快適で質の高い住環境の整備							実施計画事業・一般事業		実施計画事業
	基本事業	2 生活道路の整備							市単独事業・国県補助事業		国県補助事業
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名			任意的事業・義務的事業		任意的事業
	11077	一般	8	2	3	市道界233号線外道路改良事業		実施方法		一部委託	
事業計画	期間限定複数年度	事業期間	H27 年度～ R3 年度		根拠法令 条例等	道路法 道路構造令	事業区分	事業分類		施設等整備事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長市政公約			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1)事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)								
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方) (仮称)高萩中央公園整備と併せ公園南側に接する市道130mの歩道整備及び道路拡幅並びに公園北側へ接する界233地先道路650mの道路拡幅を行うことにより、歩行者と自転車等の安全と通過車両の円滑な通行の確保を効率的に行う。 なお、地先道路650m区間については、別事業である「市道道路改良事業」に移行して、整備を行う。 ○界233号線 事業延長L=130m 道路全幅員W=16m 歩道幅員W= 3.5 m(両側)		令和3年度実績(令和3年度に行った主な活動内容)						
		○界233号線 【令和2年度繰越し】 道路改良工事 L= 30.7m						
		活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		工事延長	m	0	0	0	0	130
		物件補償	件	0	0	0	0	0
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか？)								
市道界233号線道路整備延長		対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		整備延長	m	0	0	0	0	130
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか？)								
目的 付近住民の利便性の向上と安全に利用できる道路を整備する。		成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		整備率	%	13.7	17.3	26.5	48.4	54.9
④結果(どのような結果に結びつけますか？)								
生活道路において、住環境に必要な機能と安全を確保する。		上位成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R1年度 (実績)	R2年度 (実績)	R3年度 (実績)
		一般市道の改良率(改良済市道/市道の総延長)	%	57.7	59.3	59.3	59.3	59.4

(2)総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳		単位	H29年度(実績)	H30年度(実績)	R1年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(実績)
	事業費	国庫支出金	千円	5,544	3,019	8,096	6,535	2,000
		県支出金	千円					
		地方債	千円	4,300	2,800	7,600	6,100	6,400
		その他	千円					
		一般財源	千円	1,215	629	560	4,811	366
	事業費計(A)		千円	11,059	6,448	16,256	17,446	8,766
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			工事請負費	11,059	工事請負費	6,448	工事請負費	16,256
							工事請負費	17,446
人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2
	のべ業務時間	時間	500	500	500	500	500	40
	人件費計(B)	千円	1,908	1,911	1,908	1,819	1,819	145
	トータルコスト(A)+(B)		千円	12,967	8,359	18,164	19,265	8,911

B表(事後評価シート)

事務事業名	市道界233号線外道路改良事業	担当部	都市建設部	担当課	道路河川課	担当係	道路建設係
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	佐野新都市開発整備事業において、本路線は都市計画道路3・4・208高萩東西線として計画されていたが、予定地が最終処分場跡地の上にあったことから、廃止条件であるモニタリング調査を実施してきた。その間、計画道路用地内については、手が付けられない状況であったことから、当該用地内を避けて、暫定的な整備となっていた。その後、平成23年1月23日付で最終処分場が廃止となったため、計画道路の整備が可能となったことから、整備を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	北側に隣接して計画されている、(仮称)高萩中央公園も同じく整備可能になり、整備が進んでいることから、公園のアクセス道路としての役割も含め重要な道路となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成19年9月議会(定例会(第3回))の9月11日付け一般質問において、東部4号雨水幹線上の管理用道路とあわせて、道路整備を進めるという内容で答弁を行っている。また、続く平成22年5月12日に実施された「鍛塚町内埋立て及び道路築造意見交換会」においても、雨水BOX上を道路とし6m幅の道路で側溝も整備するという回答を行っている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 高萩・越名土地地区画整理地区内の道路であり生活道路の利便性、安全性を高めることになる。また、(仮称)高萩中央公園のアクセス道路としても機能する。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
有効性 評価	市が行わなければならない	理由・改善案 本路線は市道に認定されており、道路管理者である市が整備することは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 本路線を通行する歩行者、自転車、自動車等を対象とし、それらの安全確保及び円滑な通行を図る事は妥当である。
効率性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 本事業は令和3年度に繰越した工事の完了をもって、事業の完了である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
公平性 評価	類似事務事業はない	類似事務事業名 理由・改善案
	* 類似事務事業があれば、名称を記入	
	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
総合 評価	削減の余地はない	理由・改善案 人件費については、業務内容によって外部委託することで削減を図っている。事業費については、工事等の設計は、栃木県の土木工事標準積算基準に基づいて設計しており、また工事資材等については再生材を利用することでコストの縮減を図っているため、さらなる削減は困難である。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 道路は、不特定多数の人が利用するものであり、道路利用者の安全を確保するという事業目的からすると、受益者は特定されない市民である為、受益者負担を別途求める必要はないと考える。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	市道界233号線の歩道整備及び道路拡幅はR2繰越にて事業完了。界233号線地先道路の整備については市道道路改良事業にて実施する。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性		(2) 改革・改善による期待効果		(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																								
現状維持(従来通り実施)		廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																										
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)		<table><tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td colspan="2"></td><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>						コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																										
		削減	維持			増加																						
成果	向上																											
	維持		○	×																								
	低下		×	×																								